

「中山桜台小学校・中山五月台小学校 学校統合計画」の今後の進め方に係る意見書

学校統合準備会

#### 1 本年度の重要課題として

新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止のための臨時休業が長期にわたったため、再開後の学校では子どもたちの学力保障が最優先される喫緊の課題であり、保護者や地域は最大限、学校を支援しなければならないものと考えています。

また、子どもたちは、今までに経験したことがない「学校の新しい生活様式」に一日でも早く慣れ、落ち着いた日々を送ることができるよう、保護者や地域も学校と一緒に頑張って取り組まなければならないものと考えています。

#### 2 学校統合の目標年度について

昨年度までは、「中山桜台小学校・中山五月台小学校 学校統合計画」に基づき、令和3年(2021年)4月の統合に向けて、具体的な準備を進めていましたが、約3カ月間に及ぶ取組の中断を余儀なくされ、残された期間では、十分な準備が出来ません。

#### 3 学校統合年度の延期について

上記1及び2より、統合の目標年度であった令和3年(2021年)4月の学校統合は困難であると考えられるため、1年間延期することが望ましいとする意見がある一方、新型コロナウイルス感染症の感染拡大の第2波、第3波が発生する可能性があり、現時点で具体的な統合年度を特定することは困難であるとの意見もありました。

いずれにしても、学校統合の時期を延期することで意見は一致していますが、延期後の統合時期については、電話会議では十分に議論が出来ないことから、近日中に学校統合準備会の会議を開催して、学校統合準備会としての学校統合の時期を提言します。

#### 4 その他

今後の本会や各専門部会の進め方については、新型コロナウイルス感染症の感染拡大の第2波や第3波の発生も予測されるなか、通常の会議だけではなく、書面会議、電話会議やリモート会議等の会議運営も用いて、取組を進めることが出来るよう、教育委員会及び宝塚市において、必要な措置を講じていただくようお願いします。

## 学校統合準備会の電話（Eメール）会議 聞き取り結果

【問1】 学校では、学力保障や新しい生活様式の定着など、取り組むべき様々な課題がありますが、保護者或いは地域として、今年度（令和2年度(2020年度)）、最も優先して取り組むべき課題は何だとお考えですか？

## 【委員A】

新型コロナウイルス感染症の対応が最優先だと考える。特に児童の健康を第一。

また、児童の心のケアを図り、楽しい学校生活が送れるようにしてほしい。

## 【委員B】

まずは、子どもたちの学力保障と生活習慣の安定が必要です。また、3密対策での人数制限や会議の取り扱いなどが解消されることが必要となります。

## 【委員C】

現在は、コロナ問題対策として、新しい学校運営や子どもたちの新しい学校生活様式を用意しそれを実行し定着させることが一番大事なことだと思います。

## 【委員D】

学力の遅れがないように保障する。

## 【委員E】

2か月間も子どもたちは自宅で過ごした。学ぶことはもちろん、新しい学校様式の定着の中で、安心して、友達や先生方と楽しく関わり合う事が学校へ通う価値ではないでしょうか。

## 【委員F】

緊急事態宣言解除となり通常の生活が戻りつつありますが、第2波・第3波の懸念もあり、今年度は常に新型コロナウイルスと向き合わなければならない1年になると思います。

その様な状況で最も優先すべきは、やはり感染拡大により子どもたちや我々の地域の方が感染し、生命や生活に多大な影響を及ぼすことを防ぐことだと思います。

感染者確認があれば自粛や制限等、早期に対応することが必要です。再び学校が休業となった場合、子どもたちの学習面に多大な影響を及ぼします。

それを避ける為に自宅でのオンライン授業、リモート学習などICT機器の活用を推進すべきです。とはいえオンラインができない家庭もあり学力格差もでてきます。

ニュースで、とある自治体がタブレットの配布を素早く進めたり、あるいは学校（その他）にパソコンルームを開放し、学習環境をつくっているところを見ました。

いずれ1人1台のタブレット配布の時代が来るかもしれませんが、こういう事態の時こそ学力保障としてすぐに必要ではないでしょうか。保護者（PTA）・学校・教育委員会・自治体が協力して取り組む課題だと考えます。

## 【委員G】

コロナと共存しながら、子どもたちの学校生活（学習面、生活面、運動面）を継続していくための対策の確立と保護者への周知。（＝with コロナ時代の新しい豊かな学校の在り方を学校と保護者と地域が協力して創造していくこと）

具体的には

- ① 6月中旬以降、「通常登校」の中で、どのような「新しい生活様式」を作るのか。3密をいかに避けるかということに加え、新たな環境の中でこれまでと同様、あるいはこれまで以上の

豊かな教育環境をいかに作っていくか。学校の取組は具体的に保護者に教えてほしい（その方が安心できるので）。

- ② コロナによる学級閉鎖・休校になった時に、子どもたちの学校生活を維持する方策の充実。  
5月に課題の配布・回収があったが、そこに「先生との日記のやりとり」や「お友達の近況報告や大喜利などのちょっと楽しめる投書をまとめたプリント配布」など、コミュニケーションを活性化する何かを取り入れてほしい。週1程度でも良いので、登校するか、オンラインで参加するか選択できるクラスの集まりを持ち、楽しい会話や補習や運動を行ってほしい（誰一人抜け落ちないことが前提）。
- ③ 学校行事はこれまで通りに実施できないと思うが、コロナ対策をしたうえで、できるだけ楽しい・思い出に残る内容で実施してほしい。また、このような場合には、協力したいと思う保護者がそれなりにいると思うので、「学校ではここまでしかできない」ということで内容を決めるのではなく、保護者も協力するのでより良い内容にしてほしい。「保護者の協力が得られたらこの内容で」「保護者の協力が得られなかったらこの内容で」というように示してもらえれば、手を上げる人はいると思います。
- ④ オンラインツールの有効活用。不登校の子どもたちがオンラインで授業に参加できるようにする。個人懇談はオンライン会議で行う。学外の講師による授業をオンラインで（子どもたちは教室で）行う。など。

学習保障はもちろんですが、子どもたちの心のケアにも力を入れて欲しいと思います。

（意見1）

お友達や習い事の先生やスポーツのコーチなどからも色々聞いたのですが、目標を見失って無気力になってしまっている子がたくさん見受けられるそうです。

実際自分の子どもにも感じる部分があります。

運動会、音楽会などの学校行事も中止が決まり（中止になるのは致し方ない事で賛成です）スポーツの大会や習い事の発表会なども行われない状況で、意欲を持って色々な事に取り組む事が、より難しい状況になると想像します。

その状況でクラスをまとめる先生方も、きっと苦慮されると思います。

コロナ対策の為に色々時間も取られるでしょうし、勉強につまずく子どもも増えるでしょうし、担任の先生一人では大変な事も多々あると思います。

子ども・先生共にサポート出来る体制を強化してもらいたいと願います。

【委員H】

まずは、子どもたちの学力を取り戻すのが、一番です。また、今年度、運動会や音楽会が開催できなくて、子どもたちはストレスや不安もあることから、心のケアを考えないといけない。

最後に、これからの時期は熱中症も不安で、3密やコロナ感染症予防の対策として、マスクを着け続けるのは不安である。

【委員I】

新型コロナウイルス感染症拡大に対する対策全般が優先。

（理由）

子ども達の命を守るために、学校での感染予防の徹底。それを前提とした学力の保障。

また、これまでとは違う新しい生活様式の中で、子どもたちの学校生活も大きく変わっています。楽しみな行事の中止（運動会・音楽会等）になったうえ、行動制限もあるので子どもたちの

心のケアをすることが課題だと思います。

子どもたちが悲観的にならないよう配慮してほしい。

先生方の負担は増です。教育委員会ではどのように考えているのでしょうか。

また並行して、ICTの活用、学校に行かないと勉強が出来ない、ICT活用が出来ないではなく家庭でもICTの活用が出来る環境を落ち着いている間に速やかに整備をしてほしい。そして出来ることから活用してほしい。熊本市を参考にしてほしい。家庭でも活用できるのであれば、学校再開後の学力保障にも活用できるのではないのでしょうか。

新型コロナウイルスの第2波、第3波が来ても良いように、今後どんな状況でも、学びを止めない工夫が必要です。

#### 【委員J】

教育活動の安定が第一である。様々な変化に対応する措置を行いながら、子どもたちの学習や育ちを支援していくことが大切である。

#### 【委員K】

##### (1) 学力保障

- ① 新型コロナウイルス感染症拡大防止を第一前提とし、学校生活を通常の生活様式に戻し、約50日間（臨時休校期間）の授業時数を補わなければならない。
- ② 実施が不可能となった学校行事においては、学校独自の教育課程を編成し、代替行事（3密を回避した）や学習内容を編成する必要がある。特に、本校においては、小規模校の特性を生かし、来校者を制限した9月以降の行事を工夫することが大切である。
- ③ 少人数の特性を生かした（3密を回避した）学習形態を工夫し、可能な限り、表現力を向上させるための対話的な授業づくりをすることが大切である。（特に、学校統合に向けて、自己表現力の向上が重要となる。）

##### (2) 新しい生活様式

- ① 本校は、空き教室やトイレ、手洗い場が数多くある。1学年が単学級であるため、学級独自で使用できる場所がそれぞれ1カ所以上ある。感染の第2波、第3波も予想される中、今年度は（ワクチンが開発される迄に）、恵まれた教育環境を生かして新しい生活様式を定着させなければならない。
- ② 少人数と多くの生活空間があるという環境（学校の「地の利」）を生かし、感染防止を図った教育活動を推進する。そして、新しい生活様式を定着させる。学校行事においても、本校でしかできない内容を考え、今年度の教育活動を充実させることが大切である。

##### (3) 学校統合

- ① 現時点では、校内の異学年活動を実施することも不可能である。2校の児童の人間関係を築き上げるためには、交流学习を実施しなければならない。新型コロナウイルス感染症拡大防止を考えると、2校の交流学习を実施することは、困難な状況である。

(問2) 学校統合の目標年度を令和3年(2021年)4月としていますが、あなたが担当する専門部会では、今後、残された9カ月間で学校統合に向けた準備は可能だと思いますか？  
困難(不可能)な場合は、その理由もお聞かせください。(問3へ)  
また、可能な場合も、その理由をお聞かせください。

【委員A】

新型コロナウイルスの影響が見えない中、予定通りに進めることは困難。

保護者代表、学校関係者の優先事項はコロナ対応になるので、統合については時間を掛ける必要がある。

【委員B】

現状、無理です。

【委員C】

- ・ コロナ問題が大きくなるまでは総務部会では順調に準備が進んでいました。
- ・ しかし、コロナ問題の影響で、部会の論議も両校の交流事業なども滞っており、今後は新しい学校生活様式をつくりながらですので、更に工夫する必要があり目標まで残りの日数を考えると成果を上げるにはかなり難しいのではないかと考えます。

【委員D】

地域・PTA(育友会)部会については、統合までに準備することを本当に必要なものに選別すれば、準備は可能。ただし、子どもや先生方に影響やしわ寄せ、負担がかからない事が前提である。

【委員E】

2ヶ月間をカバーすることは難しいと思います。

【委員F】

統合に向けた取り組み(どのようなスケジュールやプロセスを経るのか、何をするのか、この3ヶ月間で何を決めておかなければならなかったのか)がどのようなものか現時点では把握できていませんが、統合開始の時期を延長することで、学校引っ越しの予定や準備をしていた子どもたち、保護者、学校に多大な混乱を招くのではないかと想像します。

準備を進める上で、今回の電話(Eメール)会議は効果的だと思います。数回は面と面を合わせ話し合いや調整する必要もあるかと思いますが、書面や電話・Eメール・SNSを活用した会議を開催すれば、議題の発信や審議・決定事項の確認がスピーディとなり時間短縮が図れます。

集まる日の調整や委員の意見収集はこのような形でやりませんか？それぞれ仕事や家庭(子育てなど)もあり大変です。現に私もなかなか休みにくかったりします。

よって会議の形態を変えていくのであれば、統合準備は可能と考えます。

※子ども、先生に負担がかからないことが前提。

【委員G】

断言できないが、かなりの確率で不可能と思う。

【委員H】

前任者からの引継いだ内容によると、現状、会議が開催できず、学校名や校歌、通学路が決まっていない状況と、再度、休校になる不安もある中で、残りの9カ月で準備するのは無理である。

【委員I】

延期してほしいです。

(理由)

集まって話をすることすら、困難な状況下で安心して統合まで持っていくのは、無理だと思います。子どもの事を第一に考えてほしいので、無理に急いでまとめてほしくないです。部会の会議や、PTA 活動も、中断している中で、スケジュール通りに進めることが不可能。

【委員 J】

困難であると感じている。新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、密集を避けることが求められる中では、両校の児童の交流の実施が出来ない状況である。また、様々な会議が開催できず、協議も進んでいない。

授業時数が減少した中、感染症拡大予防を行いながら、教育課程の再構成を行う必要があり、学校統合に係る準備に時間を十分に割くことが出来ない可能性がある。

夏休みが短縮された場合、学校統合に係る工事が実施できないと予測される。授業日の工事となると、騒音や安全管理など、児童への負担が発生する。また、教務部会として夏休み中に進めようとしていた作業も、夏休みの短縮があると、行うことが難しい。

【委員 K】

学校長として、教育の中立性、政治的中立性、教育の機会均等という観点から（可能、不可能という見解ではなく、学校統合に向けた取組として）、令和 3 年度 4 月統合（開校）と令和 4 年度 4 月統合（開校）の 2 通りのプロジェクト（計画案）を立てた。

※教務部会としての計画案は、別紙の通りである。・・・別紙 2 参照

(1) 令和 3 年度 4 月に統合（開校）する場合

- ① 学校統合を目標年度通り実施することができるので、市（国や県を含め）の施策として考えると、行政上の課題は少なく済むと考えられる。
- ② 学校づくり（統合校としての特色ある教育課程編成）、人づくり（統合後を考えた仲間づくり）を考えずに、中山五月台小学校児童全員が中山桜台小学校に移ることだけ考えた学校統合であれば、可能であるかもしれない。
- ③ 学校統合準備会をはじめとし、各専門部会を急速に進行しないと間に合わないかもしれない。（特に、教務部会（2校の教職員）においては、新型コロナウイルス感染症拡大防止のための対応も行いながらの取り組みとなるため、多忙となり学校業務に支障が生じる。）
- ④ 新型コロナウイルス感染症拡大防止を第一に考えた場合、昨年度から学期に 1 回は実施する必要がある（児童の人間関係づくりのためには、とても重要である）と考えていた交流学习が未実施のままになるかもしれない。（児童の人間関係を構築させることができない。）
- ⑤ 新型コロナウイルス感染症拡大防止を考えると、現状のままでは、閉校式を実施することも不可能かもしれない。（児童と教職員のための閉校式も考えられる。）
- ⑥ 本年度、大幅に夏季休業日が短縮された場合、数回予定していた教務部会（全体会）を開催することができない。そのため、教育課程編成や備品整理、校務支援関係のデータの整理を実施することができない。
- ⑦ 夏季休業時に予定していた中山桜台小学校の校舎の工事の実施が不可能になる可能性がある。
- ⑧ 新型コロナウイルス感染症拡大防止のために、主となる学校行事（運動会、音楽会、学校水泳等）が中止になった。また、他の行事も大きく制限された。閉校前（最後の年度）とし

て、保護者や地域の人々と共に、思い出をつくる機会が失われたともいえる。「今年度が最後である。」と考えた場合、教育的な配慮のもと、閉校することができなる。保護者や地域住民、卒業生の思いも大切にしなければならない。

(2) 令和4年度4月統合（開校）する場合

- ① 統合年度が1年間延びるということで、市（国や県を含め）の施策として、行政の取組（予算執行等）の課題が生じることが考えられる。
- ② 令和3年度入学予定の児童、保護者を困惑させない対応を考えなければならない。
- ③ 新型コロナウイルス感染症が終息した場合、交流学习を実施することができる。少なくとも、学期に1回は実施することができる。1年間、系統性を持って実施することができれば、児童の学力と生活力は向上する。また、新しい学校への生活様式も定着する。
- ④ 新型コロナウイルス感染症が終息した場合、令和3年度は大幅に夏季休業日が短縮されることはない予想される。予定通り、教務部会（全体会）を開催することができる。そのため、十分な話し合いの機会を持ち、特色ある教育課程編成することができる。また、備品整理や校務支援関係のデータの整理に時間を費やすことも可能である。時間的な面において、教職員の業務における負担も軽減される。
- ⑤ 学校統合準備会と各専門部会の進行も無理なく進められ、十分に時間をとって連携することができる。
- ⑥ 中山桜台小学校の校舎改修工事を完成させることが可能である。
- ⑦ 新型コロナウイルス感染症が終息した場合、主な学校行事（運動会、音楽会、学校水泳等）を実施することができる。他の学校行事も大きく制限されることもなく、保護者や地域住民と閉校への思いを寄せながら、学校を閉じることができる。
- ⑧ 行政、学校、家庭、地域が連携し、充実した内容の閉校式を開催することができる。
- ⑨ 行政機関、保護者や地域の人々と共に、「最後の1年」として教育活動を推進することができる。

(問3) 問2で困難とお答えになられた方にお聞きします。(問2で可能とお答えされた方は回答不要)

学校統合の時期は、いつが適当だとお考えですか？その理由もお答えください。

【委員A】

令和4年4月1日が最終目標。これ以外はない。必ずやり遂げる覚悟が必要。これ以上の延期があると、先行きが不透明な中、統合そのものが出来なくなる事を懸念する。

【委員B】

今後、学校名や校歌を決めて行かなければならないが、今のままでは子どもや保護者の気持ちが統合に向けて乗っていない。今でも先が見えてこないのに、さらに先のことなど、考えられない。

また、統合年度を令和4年度と決定事項にすることも、現状、受け入れにくい。理由は、これまで学校統合に前向きであった方ですら、蜜を回避する現状が続くことで、統合すること自体が正解なのかといった意見や、少人数の五月小ですら分散登校をしている現状で、今より密になる統合に保護者や教職員が不安を覚えないわけではなく、統合の年度を令和4年度、と決めてかかることは賛同を得にくい。やはり目標を1年延期（あくまでも目標）という表現にならざるを得な

いと思う。

少人数の五月台小でも分散登校して、交流学习や学校の行事について、目途が立っていない状態なので、まずは、通常の運営が戻り、前向きに交流学习に取り組める状況にする必要があると思う。

#### 【委員 C】

・ 統合は年度単位でとすると、統合目標年度は1年遅らせて令和4年4月が適当だと思います。  
(意見の理由)

- ・ 統合までの課題は見えていると思いますので1年9カ月かければ、論議もまた実行も可能ではないかと考えます。
- ・ それ以上延期する理由がありません。

#### 【委員 D】

子どもや先生方に影響やしわ寄せ、負担がかかるのであれば延期する方が良い。統合の時期は令和4年4月。半年間など年度の途中に統合することは、子どもたちへの影響が大きいため1年後が望ましい。

#### 【委員 E】

現場の先生方が子どもたちの様子を見て、このまま統合できると思われたのなら、それで進めていけるように委員会は努力しましょう。反対に無理だと判断されたなら、延期してください。

#### 【委員 F】

—

#### 【委員 G】

3月頃に個人的に考えてみたスケジュールでは、

4月：校長とPTAの在り方について相談、新統合委員募集

5月：総会后、最初の運営委員会で社会教育課よりこれまでの経緯と今後の予定の説明、新統合委員・新旧役員顔合わせ、

6月：PTA部会にて、新しいPTAの具体的な運営方法を検討、保護者へのアンケート調査票を作成

7月：両校統合委員会及び運営委員会においてアンケート調査票について承認を得る

9月：アンケート配布、回収

10月：アンケートとりまとめ、両校統合委員会及び運営委員会に置いて新しいPTAの規約・細則について承認を得る

11月：臨時総会にて承認を得る、のち、役員立候補をつのる手紙を配布

12月：役員選挙

以上は非常に順調に進んだ場合。

昨年度の進み方を考えると、1回のPTA部会ですべての話が終わらないことや予定の議題まで進めなかったことが何度かあり、特に新しいPTAの細則部分については1回ではなく2、3回かかる可能性がある。すると、4月に上記の通りスタートしても、2月3月までずれこむ可能性が非常に高い。

今年度、桜小では総会がまだ終わっておらず、新しい役員が活動できていない。

6月中にPTA部会メンバーで校長との相談ができて、統合委員募集チラシの承認ができない。よって、4月に予定していた内容を7月に行うとすると、3か月ずれることになるので、年度



を超えてしまう可能性が非常に高い。

(意見 2)

今年度末は難しいかと思えます。統合についてよりコロナでおくれている学習や行事など、まずは優先的に通常の学校生活を取り戻すことに全力をそそいでもらいたいと思えます。

いつまで延期するのかについては、これ以上の遅れが出ない前提で、あまり先延ばしするのもよくないので来年度末にはできたらいいなと思えます。

市内すべての幼・小・中の対応にあたると思うので、片手間の中での統合になるのだけは避けてほしいと思えます。またどちらも最高学年の子どもがいるだけに…今年度の学校生活を通常に戻せる対策等に全力を尽していただけたらと思えます。

【委員 H】

学校統合後の桜台小は人数が多くなるので、統合したら感染のリスクが増えてしまう。

また、個人的に桜台小の教室が足りていないという意見を聞いたため、統合年度を 1 年遅らせて、令和 4 年にする方が良い。

【委員 I】

以下の意見があった。

① 白紙に戻してほしい

(理由)

様々なことが先行き不透明な中、統合の時期だけ先に決めるのはおかしい。今までと状況が全く違う。学校統合の目的は、統合することで子どもたちが切磋琢磨出来る環境を整備することだったが、現状では人数が増えることが、3密を作ることになるため、教育環境の整備につながると全く感じる事が出来ない。五月台小の児童数が少ない事で、コロナ後も安心して学校へ通わせる事が出来る。現状では統合をするべきではないと感じている。保護者としては統合はやめてほしい。

② 統合の時期は現状では判断できない。判断できるようになるまで延期してほしい。

(理由)

先行き不透明な中、スケジュールは立てられないのではないかと。このような状況で3密になる交流事業はどのように実施していくのか、統合を何年延長して良いのかも分からない。新型コロナウイルス感染症で不安な時期に、根拠もなく不安を煽ることになるのではないかと。ワクチンが開発され、新型コロナウイルスと共存できるようになり、先行きが見通せる状況になるまで、学校統合を延期してほしい。

【委員 J】

次年度以降。次年度を目指せばよいが、新型コロナウイルスの動向を見据えながら、予想が出来ない事に対応する必要があることから、不確定な要素は否めない。

【委員 K】

対比しやすいように、問 2 の欄に並列させて書きまとめました。

(問 4) その他、学校統合を進めるに当たり、皆様のご意見をお聞きます。

【委員 A】

保護者への情報提供について。保護者への情報提供の頻度を上げてほしい。統合だよりの頻度を上げることが必要。また学校から配られるプリント(学校が発行しているもの)の方が保護者

は目を通してくれるので、学校からのプリントにも統合の内容を載せ、こまめに情報提供していただきたい。

**【委員B】**

子供たちや保護者、教職員の気持ちが学校統合に向けて、せめて以前のような理解にまで戻らないことには、地域も学校統合について、前向きに考えていくことはできない。

**【委員C】**

- ・ 両小学校の統合は地域の子どもにとって最善の策であることは変わりありません。
- ・ これまで通り子どもにとってより良い統合になる事を第一として取り組みます。
- ・ 統合の準備は着々と進んでいますが、コロナ問題で学校運営の大転換が要求されることになり、それとの折り合いを付けながらの統合になるので時間がかかることはやむを得ません。
- ・ 更に、小中一貫校についても視野に入れて統合事業を進めましょう。

**【委員D】**

学校統合とは直接関係はないが、今は共働き世帯が多く、青少年育成市民会議等の地域の会議は、世代交代が出来ず、顔ぶれが同じ。学校統合と並行して、その辺りについても検討いただきたい。

**【委員E】**

現状にプラスしての学校統合については、保護者の方々はかなり心配されると思う。学校を信頼して進めていく流れを委員会で作っていくしかないのではと思います。

**【委員F】**

—

**【委員G】**

- ・ 市及び学校には、まずコロナ対策やコロナ時代の学校の充実策をしっかりと検討していただきたい。
- ・ そのことと同時に統合についても検討するのは無理があると思う（それぞれが片手間になるのでやめてほしい）。
- ・ コロナ対策を考えると、いかに3密を避けるかが重要であり、統合はそれに反する。来年度統合の場合、教室も余裕がない状況。狭い校舎に押し込めることになる。桜小の人数がもっと減って、五月小の子どもたちが来てもゆとりのある教室数を確保でき、安心・安全な環境が確保できるようになってから、統合することが望ましい。
- ・ 当初、教育環境適正化検討委員会では、五月小保護者からの強い要望があり、統合するのが良いとの結論を出したが、今となっては統合を望まない声の方が強いのではないか。コロナ前とコロナ後では、統合のメリット・デメリットの天秤が逆転している（今はデメリットの方がはるかに大きい）と思う。

**(意見1)**

- ・ コロナによる影響で、子どもも保護者も不安な中での統合は、更なる混乱を招くと思います。統合の延期を強く希望します。延期の時期(何年度に統合するか)についても、コロナが今後どうなっていくかわからない状況で(第二波がくる、冬になりコロナとインフルが同時流行する、再度長期休校の可能性など…)今決めるのは難しいのではないかと思います。

教育委員会には、今年度は休校による学習の遅れを取り戻す事、子ども達の気持ちに寄り添う事、そのための学校や先生へのサポートに、全力を注いで欲しいです。

## (意見 2)

- ・ 新本部さんの活動もスタートが遅れているので、統合と本部の活動が同時進行で進められるか心配です。
- ・ 先生方も、学習要項の変更とコロナでの遅れの対応に追われる中、さらに統合についての負担をかけるのも心配です。
- ・ 3月から予定されていた会議や保護者への説明会など実施できていない活動手順通りに進められたらと思います。

## 【委員 H】

今まで、学校で配布されるプリントを読んでいたが、そこからでは分からない部分があったということが分かったので、反対意見と向き合っていくことが課題になると思います。

統合については、反対していませんが、学校統合に係る保護者アンケートの内容について、本来であれば、3月中にお知らせいただける予定であったが、新型コロナウイルスの影響により、実現できていないので、改めてお知らせして欲しい。

## 【委員 I】

新しい生活様式での生活を強いられる中、統合の必要性が今までと大きく変わっています。新型コロナウイルス感染症で子どもたちも不安な状態にも関わらず、バタバタと統合するべきではないと思います。

これ以上、子どもたちや保護者の不安を煽ることのないように進めていただきたい。

子どもたちの心のケアや安心、安全を確保してから統合について検討してほしい。

今までより課題も増えました。まずは、延期し、この時期にじっくり新しい学校について話すべきだと思います。コロナ前と状況が大きく変わったので本当に統合が必要かどうかも含めて、議論が必要だと思います。

## 【委員 J】

授業時数が減少し、教育課程の状況が不透明な中、次年度も、両校の児童が校歌の作詞に費やす時間が確保できるか分からない。昨年度は時間がないから、外部に依頼できず、学校で作ってほしいとのことであったが、統合までの時間ができるようなら、作成方法については、再検討していただけるとありがたい。子どもたちがかかわるという意義はあるのだが、意見を出したものを集約すれば、何回もフィードバックする必要もあり、時間がかかる作業となる。

## 【委員 K】

- ① 新型コロナウイルス感染症拡大防止の取り組みを行いながら、通常の学校生活を取り戻すことと、学校統合の準備を並行して取り組まなければならない。各専門部で決定したことを再度確認し、簡素化、一元化できるところは見直す必要がある。(例えば、校歌の作詞は児童ではなく、専門的な技能を持った人に依頼する。・・・教育活動における時間の保障)
- ② 今後も新型コロナウイルス感染症拡大が懸念される中、学校統合の年度はしっかりと定めておく必要がある。なぜなら、施策として成立しないからである。行政と学校、地域の取組を考えた場合、予算執行やそれぞれの分野におけるスケジュール感をしっかりと持って取り組む必要がある。
- ③ 学校統合により、今年度が最終年度になると思っている児童がいる。学校統合の計画年度を明確にし、児童の不安を取り除くことが大切である。子どもたちは大人たちの議論を敏感に感じ取っている。今年度も6月になっている。学校長から全校生に決定事項を伝える必要がある。

■ 学校総合目標年度【令和3年4月1日】スケジュール案

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
第1週	臨時休業期間		委員会	委員会	委員会	委員会	委員会	委員会	個人懇談	冬期休業期間	委員会	委員会
第2週			委員会	委員会	学校閉鎖期間	委員会	委員会	委員会	委員会	委員会	委員会	職員会議
第3週			職員会議	職員会議	職員会議	職員会議	職員会議	職員会議	職員会議	職員会議	職員会議	卒業式準備 閉校式準備 閉校式
第4週				教務部会	教務部会(全体)	教務部会(全体) 教務部会	教務部会(全体) 教務部会	教務部会(全体) 教務部会	冬季休業期間	教務部会(全体) 教務部会	教務部会(全体) 教務部会	春季休業日 物品全体移動
学校行事	入学式						交流学習(1回)可能であれば	修学旅行(桜台)可能であれば	修学旅行(五月台)	交流学習(1回)	可能であれば	卒業式

■ 学校総合目標年度【令和4年4月1日】スケジュール案 (1/2)

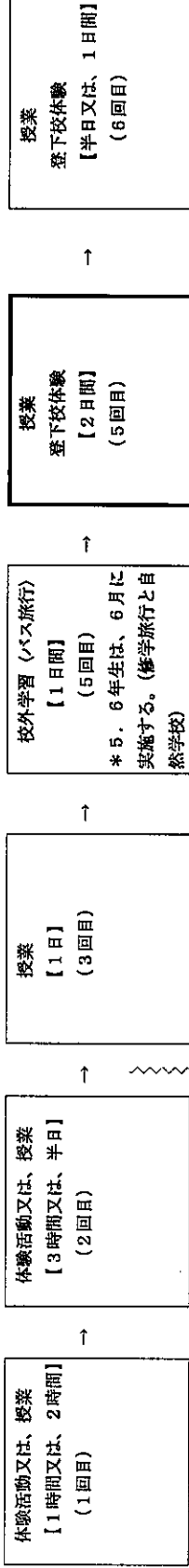
月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
第1週	臨時休校期間		委員会	委員会	委員会	委員会	委員会	委員会	個人相談	冬季休業期間	委員会	委員会
第2週			委員会	委員会	学校閉鎖期間	委員会	委員会	委員会	委員会	委員会	委員会	職員会議
第3週			職員会議	職員会議	職員会議	職員会議	職員会議	職員会議	職員会議	職員会議	職員会議	卒業式準備
第4週				教務部会	教務部会(全体)	教務部会	教務部会(全体)	教務部会	冬季休業日期間	教務部会(全体)	教務部会	春季休業期間
学校行事	入学式						交流学習(1回)	修学旅行(校舎)	修学旅行(五月台)	交流学習(1回)	可能であれば	卒業式

■ 学校総合目標年度【令和4年4月1日】スケジュール案 (2/2)

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
第1週	春季休業日	家庭訪問 進休期間	委員会	個人懇談	★夏季休業期間 教務部会(全体)	委員会	委員会	委員会	個人懇談	冬季休業日期間	委員会	委員会
第2週	委員会 職員会議	委員会	委員会	委員会	学校閉校期間	委員会	委員会	委員会	委員会	委員会	委員会	職員会議
第3週	職員会議	職員会議	職員会議	職員会議	職員会議	職員会議	職員会議	職員会議	職員会議	職員会議	職員会議	卒業式準備 校式準備 閉校式
第4週	教務部会	教務部会(全体)	教務部会	★夏季休業期間 教務部会(全体)	教務部会(全体)	教務部会	教務部会(全体)	教務部会	冬季休業日期間	教務部会(全体)	教務部会(全体)	春季休業期間 物品全体移動
学校 行事	入学式	交流学習(1回)	修学旅行(交流) 自然学校(交流)	交流会	運動会	交流学習(2回)内1回バス旅行	音楽会	交流学習(1回)	卒業式			

令和3年度

☆交流学習の系統性(発展性)



☆令和2年度に実施する

☆令和3年度に実施する。

\*活動しやすい秋に実施する。

(統合前の最後の顔合わせ)